

卒業論文

目的意識を強いられる若者のキャリア形成
——人との“間”に生きる日本人・就職活動生の実態から——

九州大学 文学部 人文学科 人間科学コース
社会学・地域福祉社会学専門分野
2017 年度入学

提出日 2021 年 1 月 6 日

要約

「はたらく」ということに関して様々な議論がなされている現在、若者の「入社後ミスマッチ」や「新卒3年以内離職」といった諸問題が注目されている。

承認欲求は人間誰しもが備えているものであり、特に日本人は他者からの承認を求める傾向が強い。そこには、他者との連関の中で自己の存在を認識する間人主義が起因している。しかしVUCA時代と呼ばれる現在の変化が激しい時代においては、かつてのように「この道を辿れば順調に出世できて賞賛される」というロールモデルが意味をなさないものになっている。そのためどのように承認を得ていいかがわからず、人々は生きづらさを抱えている。現在、そのような時代の変化の過渡期にある中で社会に出る若者もこの生きづらさを感じており、それがはたらく上での諸問題を引き起こしていることは確かである。

現在は、これまでのような終身雇用や年功序列といった制度が崩れしており、大手企業だから安泰であるという考え方も通用しなくなった。そのため、副業や兼業を許可する会社も徐々に増えてきており、雇用形態の変化に伴い人々のはたらき方も多様化している。大衆的なはたらき方から、個人に合わせたはたらき方に推移していく、自身のライフプランに合わせてキャリアデザインができるようになっている。これは、「成果の分だけ評価されたい」と感じる人や「こういうはたらき方をしたい」という要望を持っている人などにとつては以前よりもはたらきやすくなつたといえるが、一方で自分自身で意思決定をしていくことを苦痛に感じてしまう人にとってはかえって生きづらさを感じてしまっている。敷かれたレールの通りに生きていくことの方が確かに楽ではあり、「自分で決めなければならぬ」「判断軸を持たなければならない」といった義務感から路頭に迷ってしまう若者も少なくはない。現在の大学生は特に、それまでの学校教育でキャリアについて深く考える機会がそれほどなく、いざ社会に出ようと就職活動をする時にその現実を突きつけられることで、納得のいく会社を選べずに終わってしまうという問題もある。彼らに対してもこれまでの学校教育の中で、各成長段階に応じたキャリア教育のカリキュラムはつくられているが、学校や教員ごとに実施内容の質が異なっていたり、各内容の目的が伝えられてないことなどから、効果的なキャリア教育はできていないといえる。

本論文では、こうした「はたらく」に関する諸問題を踏まえて、現在就職活動中、もし

くは就職活動を終了した内定者に対してインタビュー調査を行い、どのような考え方を持つて自身のキャリアと向き合っているのかを考察した。調査を通して、対象者たちがキャリアについて考える際に常に他者との関わりが影響していたことや、「何のためにたらくのか」という目的意識を持っていることが明らかになった。就職活動をする段階で初めて既存のはたらき方の考えを覆されて焦りを感じた対象者もいたが、そうして悩む中でもより自身の居心地のよい環境を求めて、判断軸や新たな価値観を形成している姿勢もみられた。先に述べたように、自分で意思決定を行いキャリアデザインしていくことが求められていることは若者にとって生きづらさを生じさせてしまっているが、だからといって既存の認識のまま社会に置いていかれてしまうと、周囲からの承認を得られず、他者との関わりの中で生きていく日本人はより苦痛を感じてしまう。将来が不確実でかつ選択肢もたくさんある中で決断していくために、目的意識を持つことを強いられているといつても過言ではない状態はあるが、それでも少しでも生きやすくなるように若者は自身の考えをアップデートさせ社会に順応している。

今後 VUCA は加速しさらに先が見えず社会が曖昧な状態になるだろう。そのような中で生きていくためには、これから自分だけの判断軸や目的意識を持つことがさらに求められるようになる。そのため大学生よりも前の段階で自身の判断基準を形成していくことが必要であり、現在行われているキャリア教育も効果的なものにしなければならない。判断軸というのはその時々によって変わるものではあるが、キャリア教育においては設定されているアクションプランを淡々とこなすのではなく、「その行動をなぜするのか」をしっかりと伝え、どのように目的意識を持っていくかという考え方を教えていかなければならない。それが幼い頃から目的意識を持つことの重要さを知ることにつながり、その後の人生の選択においても指標となり、今よりもはたらくことに対する生きづらさを軽減できるのではないか。

目次

1 はじめに-----	1
2 先行研究-----	2
2.1 VUCA 時代に生きる若者たち-----	2
2.1.1 VUCA 時代とは-----	2
2.1.2 VUCA 時代が社会に及ぼす影響-----	2
2.1.3 VUCA によって強いられる現実-----	5
2.2 社会的承認を求める人々-----	5
2.2.1 承認欲求の呪縛-----	5
2.2.2 賞賛されたい/拒否されたくない—2つの承認欲求の形-----	6
2.2.3 仕事における承認欲求-----	7
2.3 “日本人らしさ”に対する葛藤-----	10
2.3.1 日本人の人間モデル-----	11
2.3.2 個人と間人-----	12
2.3.3 「間柄」という概念-----	13
2.3.4 間柄の属性と活性化-----	14
2.4 小括-----	15
3 現在のはたらき方について-----	16
3.1 若者のはたらきづらさの実態-----	16
3.2 雇用環境の変化-----	17
3.3 はたらき方の多様化-----	19
3.3.1 「働き方改革」による影響-----	20
3.3.2 自らキャリアデザインする時代に-----	21
3.4 キャリア教育について-----	22
3.4.1 「やりたいことがない」問題-----	23
3.4.2 キャリア教育の意義・課題-----	24
3.5 小括-----	25
4 調査概要-----	26
4.1 調査目的-----	26

4.2 調査対象	26
4.3 調査方法	26
4.4 調査期間	27
5 分析・考察	27
5.1 調査対象者の概要	27
5.2 調査対象者の事例	29
5.3 キャリアについて考え始めたきっかけ	30
5.4 会社を選ぶ判断軸——大手かベンチャーか	32
5.5 社会に出ることの不安	36
5.6 何のためにはたらくのか	39
5.7 人との“間”に生きる	42
6 結論	43